

12:14 この日は、あなたがたにとって記念すべき日となる。あなたがたはこれを主への祭りとして祝い、代々守るべき永遠のおきてとしてこれを祝わなければならない。

12:15 あなたがたは七日間種を入れないパンを食べなければならない。その第一日目に、あなたがたの家から確かにパン種を取り除かなければならない。第一日から第七日までの間に種を入れたパンを食べる者は、だれでもイスラエルから断ち切られるからである。

12:16 また第一日に聖なる会合を開き、第七日にも聖なる会合を開かなければならない。この期間中、どんな仕事もしてはならない。ただし、みなが食べなければならないものだけは作ることができる。

12:17 あなたがたは種を入れないパンの祭りを守りなさい。それは、ちょうどこの日に、わたしがあなたがたの集団をエジプトの地から連れ出すからである。あなたがたは永遠のおきてとして代々にわたって、この日を守りなさい。

12:18 最初の月の十四日の夕方から、その月の二十一日の夕方まで、種を入れないパンを食べなければならない。

12:19 七日間はあなたがたの家にパン種があってはならない。だれでもパン種のはいったものを食べる者は、在留異国人でも、この国に生まれた者でも、その者はイスラエルの会衆から断ち切られるからである。

12:20 あなたがたはパン種のはいったものは何も食べてはならない。あなたがたが住む所ではどこでも、種を入れないパンを食べなければならない。」

12:21 そこで、モーセはイスラエルの長老たちをみな呼び寄せて言った。「あなたがたの家族のために羊を、ためらうことなく、取り、過越のいけにえとしてほふりなさい。

12:22 ヒソプの一束を取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血をかもいと二本の門柱につけなさい。朝まで、だれも家の戸口から外に出てはならない。

12:23 主がエジプトを打つために行き巡られ、かもいと二本の門柱にある血をご覧になれば、主はその戸口を過ぎ越され、滅ぼす者があなたがたの家にはいて、打つことがないようにされる。

12:24 あなたがたはこのことを、あなたとあなたの子孫のためのおきてとして、永遠に守りなさい。

12:25 また、主が約束どおりに与えてくださる地にはいるとき、あなたがたはこの儀式を守りなさい。

12:26 あなたがたの子どもたちが『この儀式はどういう意味ですか。』と言ったとき、

12:27 あなたがたはこう答えなさい。『それは主への過越のいけにえだ。主がエジプトを打ったとき、主はエジプトにいたイスラエル人の家を過ぎ越され、私たちの家々を救ってくださったのだ。』すると民はひざまずいて、礼拝した。

12:28 こうしてイスラエル人は行って、行なった。主がモーセとアロンに命じられたとおりに行なった。

種を入れないパンは罪のない純粋な信仰を表します。私たちはそのような信仰でイエス様の十字架を生けいれたのです。その信仰の尊さを忘れないようにしましょう。

聖なる会合を開くようにと命じられていますが、救いを忘れずに感謝することを、単に個人の心の中だけでなく共同体として続けてゆくようにということです。このように救いを心に刻むのです。私たちにとっては礼拝がそれであり、またクリスマスやイースターなどの礼拝がそれです。

いけにえは、救いのためには血を流して、罪を負う身代わりが必要であることを表します。イエス様の十字架の現実を覚えましょう。私たちにっては聖餐がそれにあたります。

主の十字架を子孫に、また次世代に伝えるためにも、その現実性を覚えるための礼拝を熱心に守り、そこを原点としてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

